

編集後記

『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第七号をお届けします。刊行にあたっては、関係各位に多大なお力添えをいただきました。深く感謝申し上げます。

今号の内容は、二〇一〇年度の活動報告が主体となっています。丸山眞男文庫所蔵資料の整理・公開状況の報告、本センター主催の記念講演会の記録、公開授業、読書会の報告などを含みます。

二〇一〇年度の丸山文庫記念講演会には、新潟国際情報大学教授の區建英氏を講師にお迎えしました。ご講演の前半では、丸山眞男が中国の学問世界に与えた影響についてご自身の経験をもとにお話いただきました。なかでも、天安門事件前後の時期における丸山と中国人留学生たちとの交流の証言は大変興味深いものです。後半では、厳復による「仁政」の解釈を例にあげ、「執拗低音」という丸山の思想史のとらえ方に触発され中国近代思想の考察を深めていかれた過程についてお話しくださいました。丸山に対する国外からの関心のあり方を知るうえで示唆に富んだ、すばらしいご講演でした。ご講演記録の作成に際しては、東京大学出版会編集部のご協力を得ました。厚く御礼申し上げます。『UP』二〇一一年四月号にもその概要が掲載されています。

本年も、日本政治思想史が専門のお二人の研究者に公開授業と読書会の講師をお願いし、どちらも大好評のうちに幕を閉じました。入念に準備され、受講者の関心にも配慮した格調高い内容で、その模様は本誌に報告

されています。読書会の第三回目は東日本大震災の影響により中止せざるをえないこととなりました。震災から一年近くが経ちましたが、あらためて犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈りし、また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

例年に引き続き今号でも、丸山文庫所蔵の未発表原稿二篇を翻刻しました。いずれも、丸山の学問と思想が形成されていった過程の一端を示す、非常に貴重な資料です。翻刻にあたっては、丸山文庫協力の会の松沢弘陽氏を中心に、本文に綿密な校訂を加えるとともに、内容理解のための注と解説を執筆いただきました。深く感謝申し上げます。

そして、今号には特別に、東京女子大学教授の土合文夫氏による、丸山文庫所蔵楽譜の調査報告が掲載されています。土合氏は長期にわたって丸山の楽譜資料を地道に調査されてこられ、この報告はその積み重ねられた成果です。丸山の音楽に対する関心は、それ自体興味深いものですが、しばしば音楽の比喻を用いて学問的な発言もなされており、丸山の学問や思想を理解するうえで重要な意味を持つといえるでしょう。しかしこれまで、資料的制約もありこういった研究は立ちおくれしているのが現状です。この論稿は、今後のさらなる研究の基礎として重要な貢献だと考えます。

丸山文庫では、二〇一〇年夏、閉架図書を開いたしました。閉架図書に関しては、書き込みなどのあるページのデジタル化の作業が難航しておりましたが、この度、デジタルデータが完成し、公開の運びとなりました。

丸山文庫顧問・協力の会をはじめ、ご尽力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。丸山文庫の利用者数は順調に増加しておりますが、今後も草稿類のデジタル化を推し進め、閲覧の便宜を図っていく所存です。関係各位と利用者の皆様より、ご助言やご支援をいただけますと幸いです。

なお、『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』をより広く利用していただくため、今号より、東京女子大学学術情報リポジトリにおいて、デジタルデータとして公開することといたしました。PDFファイルを閲覧できる環境であれば、どこからでもご覧いただくことができます。以前の号につきましても、順次公開する予定です。本センターの活動を通して、丸山眞男文庫の存在価値を学内外、さらには国内外に知っていただき、そこに連なる比較思想、政治思想、その他関連分野の研究に資することを願っております。

東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念
比較思想研究センター報告 第七号

二〇一二年三月八日発行

編集 大角翠

発行 東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺二―六―一

印刷 (株)丸井工文社

